

「変わる学校図書館」

このような見出しが、広報かしわ(平成29年3月1日号別冊)の1面を飾りました。柏市では、新しい時代を生き抜くために必要となる力を「学び続ける力」と捉え、その根底となる「学ぶ意欲」と「学ぶ習慣」を、すべての子どもたちが身に付けられるよう、授業の工夫・改善や環境整備を進め、その軸の一つとして学校図書館は推進されてきました。近年では、「読書センター」としての学校図書館はもちろんのこと、子どもたちが自ら進んで調べたり、伝え合ったりする場としての「学習センター」・「情報センター」としての学校図書館へと使い方が変わってきています。

その結果として、千葉県が学校図書館の質の高さを認定する「優良・優秀学校図書館」制度で、市のほぼ全ての小・中学校が優良図書館に認定されています。うち39校では、さらに優秀図書館にも認定されています。認定基準は、蔵書冊数の多さや学校図書館指導員の配置日数、環境整備など24項目に上り、名実ともに質の高さを誇っています。

また、平成20年度から開始された、公共図書館や市内各小中学校の蔵書を互いに貸借しあう「図書流通システム」は、現在では(平成29年度)年間1万冊近くの本が、学校間や市立図書館とを行き来して活用されています。

今後は、平成29年3月に策定しました「第三次柏市子ども読書活動推進計画」に基づき、豊かな心を育む読書活動に力を入れる「読書センター」をはじめとして、学校図書館を「学習センター」として整備し、PCメディアも含めた多様な情報、資料を学習に活用する「情報センター」としても推進していく方針です。

本冊子は、児童生徒の「学ぶ意欲」と「学ぶ習慣」のさらなる向上に結びつけるために、どのように学校図書館を運営すればよいか、指針を示したものです。校内の協力体制を整えた上、司書教諭、学校図書館指導員をはじめとして、すべての教職員に本冊子を活用していただきたいと思います。

最後に、本冊子を作成するにあたり、ご尽力いただきました中澤孝子学校図書館コーディネーター、中島史子学校図書館アドバイザーをはじめ、学校図書館指導員の皆様、貴重な資料をご提供いただいた学校および図書館関係者の皆様に、心より感謝の意を表します。